

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価(3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	将来の日本や国際社会でリーダーとして活躍できる高い資質、能力をもった人材を育成する教育課程編成、及び学習指導に学校全体で取り組む。	発展的で高度な内容の授業実践を組織として充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業互見の雰囲気醸成及び教科ごとの湘南高校での授業実践の話し合い</li> <li>進学重点型 AL 視点授業研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究発表会において、発表者個人の研究ではなく事前に教科として研究授業の内容を把握しアドバイスができたか。</li> <li>校内職員対象進学重点型 AL 視点授業研究説明会に参加できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定研修者の研究授業を延べ12回実施した。前期は授業者への事後指導が多かったが、後期は各教科の事前アドバイスが多く見られ、参観者が教科を横断して増加した。</li> <li>5月進学重点型 AL 視点授業研究WG(10名)を立上げ、都立西、埼玉浦和の授業研究会に参加し、職員会議で報告、首都圏授業研究情報を共有した。</li> <li>3年の教育課程を改定し、生徒の進学希望に見合う選択を94回生から可能にした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業変更ができず、見学できない教員のため、研究授業をビデオに撮る等工夫が必要である。</li> <li>新学習指導要領の29年改訂31年先行実施にあわせ、新カリキュラムの策定を見直し、深い学びの実践を首都圏進学重点校と連携して研究する。</li> <li>新1年4月に定点観測試験導入。</li> <li>英語4技能を活用する外部試験導入検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究協議会に参加したが昨年度より中学や他県からの参加者が多く、見学者が教室からはみ出しており、盛況であったことは評価できる。</li> <li>英語力を向上させる対策を早急に行うべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究発表の事前に教科から授業者へのアドバイスが増えたことは取組の成果である。全教科で実施することが課題である。</li> <li>授業研究WGが首都圏公立進学重点校の授業研究に参加できた。今後はさらに首都圏、他県私学の授業研究に参加し、成果を持ち帰る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究発表授業をビデオ撮影し、いつでも誰でも見られる、湘南高校授業ライブラリーをつくり、教科で授業を共有するしくみを考える。</li> <li>授業研究WGが中心となり、本校の生徒にふさわしい深い学びの授業実践を発信し、職員全体で共有する。</li> </ul>
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 次世代リーダーとして、望ましい社会性、高い規範意識、心豊かで他者を思いやる人間性を育成する。</li> <li>② 組織的で丁寧な個別の支援体制を確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①部活動等を通し、次世代リーダーとして社会貢献活動やボランティア活動の一層の推進を図る。</li> <li>②支援教育の視点を全職員が共有し、個別の支援のためにケース会議の充実を図り、課題の解決にあたる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①部活動等が自主的にできる範囲の社会貢献活動やボランティア活動を提示する。</li> <li>②管理職、担任、教育相談コーディネータとSCが連携し、個別の支援のために相談機関等を活用してケース会議で支援方針を立て個別支援シートに蓄積していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①部活動等を通した社会貢献活動やボランティア活動が昨年度の部活から__部活に増加したか。</li> <li>②ケース会議での取り組みが支援の必要な生徒の指導に生かせ、課題解決につながったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①吹奏楽部が岩手県立大槌高校生を迎え、希望ヶ丘、川和と合同コンサート5回目を実施。ジャグリング部による幼稚園、中学校、老人ホームでのパフォーマンス。野球部による年間を通じた毎朝の清掃。駅伝大会後の海浜公園全員清掃等、例年通りボランティア活動を実施し好評を得た。</li> <li>②ケース会議でSCと担任及び教科担当との3年間の継続的な連携により、複数の生徒と保護者を支えることができ、無事卒業に至った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①運動部における社会貢献活動やボランティア活動を模索する。</li> <li>部活動加入率を維持しながら、体育祭を中心に生徒が主体的に行事を作り上げ、なおかつ高い進路希望の実現をめざす、学習、部活動、行事の鼎立を通して人格形成をはかる教育方針を学校全体で共有し、様々な機会に生徒に発信する。</li> <li>②支援を必要とする新生生に対する支援チームを結成し、個別支援計画を立て、個別支援シートで内容を蓄積し、課題解決を目指す。日々の学校生活で余裕を失った生徒への個別支援を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①部活動の地域貢献は大いに評価できる。</li> <li>部活動や学校行事の湘南高校における教育的意義は非常に大きい。この伝統のよさを発信し続けるとよい。</li> <li>②全日制の一部の生徒が高校生活で余裕を失う原因が「中学時代との成績ギャップから自分自身にかけての期待につぶされている。」という共通認識での支援が実って3年生全員の卒業は高く評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①部活動を通じて社会に貢献することの意義や喜びを感じさせることができた。さらに多くの部活動の社会貢献活動参加を呼びかける工夫が必要である。</li> <li>②支援を必要とする新生生に対する支援チームを結成し、入学前からスムーズな受け入れ態勢を整えた。一方日々の学校生活で余裕を失った生徒への個別支援を充実させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各部活動の社会貢献実践のホームページ掲載や、校長表彰など、さらに広めていく。</li> <li>学習、部活動、行事の鼎立を通して人格形成をはかる湘南高校の教育方針を内外に発信し続ける。</li> <li>②担任、学年、養護教諭、SC、管理職が生徒の様子を把握し、早めのケース会議で支援策を立てる。支援データを蓄積し、外部連携も視野に入れ、チームとして生徒、保護者を支援する。</li> </ul>

3	進路指導・支援	一人ひとりが将来を見据え、主体的に進路実現できる生徒を三年間を通して育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の希望する難関大学進学を実現するための組織的な教科指導や試験結果の分析を職員が共有し、公立高校を牽引する役割としてふさわしい進路実績のさらなる向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年を越えた進路指導を組織的に進め、湘南高校の三年間を見通した進路指導体制を確立していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講演会等のキャリア支援の機会を昨年の__回から__回に、また参加者数を__名から__名に増やすことができたか。</li> <li>・センター試験において5教科7科目型受験が昨年は75%であったが今年度は__%であるか。</li> <li>・職員の授業研究会や入試問題研究会への参加者が、昨年の__名から__名に増加したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生等によるキャリア講演会が10回以上実施された。 (3年1回、2年2回1年3回、全学年土曜講座年5回)卒業生ハーバード大学準教授による「土曜講座」受講者は通常の10名から30名に増えた。</li> <li>・難関国公立志望者のセンター試験5教科7科目型受験が昨年は75%であり今年度も76.3%であった。</li> <li>・職員対象入試問題研究会への参加者が昨年18名、今年20名と、進学重点校としてふさわしい授業作りに取り組む教員が増えている。</li> <li>・授業研究WGが東大入試問題を用い、「学年を越えた教科指導研修会」を2回実施、延65名の教員参加を得た。</li> <li>・グローバル化対応の取組が進んだ。 *即興型英語イベント 参加生徒65名 *九州派遣 2名 *春季海外研修 参加生徒44名 同窓会と共催となり 引率教諭付く *西高エンバウメントプログラム 参加生徒2名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生等によるキャリア支援のための「土曜講座」、夏季講習50講座、サマースペシャル13講座と部活動との兼合いを検討し、講座参加生徒を増やす工夫が必要である。</li> <li>・本校では安易に指定校推薦は勧めず、高い希望の進路実現を目指す指導を継続する。ただし、生徒保護者の意識向上とともに生徒の学力と思考力判断力表現力を鍛える教員の授業実践が必須である。</li> <li>・授業研究WGによる継続的な東大入試問題を用いた「教科指導研修会」への参加教員を増やし、教科内での不断の授業研究につなぐ。</li> <li>・グローバル化対応の取組の組織化が必要。 *2年台湾修学旅行の事前事後研修 *夏季首都圏進学重点校スワフト大研修参加予定生徒6名 *春季海外研修旅行及び事前事後学習の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学進学指標のひとつに「東大合格」という文言は大きな役割を果たすと考える。神奈川県公立高校としてよい意味で他の進学校と競争するとよい。</li> <li>・高い希望の進路実現を目指すため、センター試験5教科7科目型受験者の伸びは評価できる。一方で現役での進学率を高める指導も必要でその対策に取り組んでほしい。</li> <li>・即興型英語イベントにおける生徒の自主的な取組と成果は高い評価に値する。自分の意見をしっかりと伝えられるリーダー的人材の育成を期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア講演会は進路支援G、学年、同窓会の協働により、回数には充分であるが、特に「土曜講座」は部活動と重なり参加者が少ない。夏季講座やサマースペシャルも部活動との重なりが課題である。</li> <li>・センター試験5教科7科目型受験者数は76%以上の高率である。</li> <li>・職員の外部研究会への参加は横ばいだが、校内研究会への参加は増えている。</li> <li>・グローバル化対応の取組が大幅に増え、それぞれに参加する生徒数も増加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア支援のための講演会や夏季講座、サマースペシャルの参加人数を増やすためには部活動単位での参加などの工夫をする。</li> <li>・今後も本校では安易に指定校推薦は勧めず、高い希望の進路実現を目指す指導を継続する。ただし、生徒保護者の意識向上とともに生徒の学力と思考力判断力表現力を鍛える教員の授業実践が必須である。</li> <li>・授業研究WGによる継続的な東大入試問題を用いた「教科指導研修会」への参加教員を増やし、教科内での不断の授業研究につなぐ。</li> <li>・台湾修学旅行及び海外研修旅行を充実させる。首都圏進学重点校との協働的取組への本校職員、生徒のかかわりを組織的に持続させる。</li> </ul>
4	地域等との協働	地域との協働、連携による開かれた学校づくりを推進する。	ホームページや学校説明会等の広報活動の内容をさらに充実させ、開かれた学校づくりを一層進める。	閲覧者のニーズを踏まえた情報提供となるようHPを改善していく。	学校説明会、体育祭、文化祭の公開、小学生フェスティバルにおいて、効果的な広報活動が進められたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事・説明会等の詳細について、掲載する時期を予めホームページに載せておいたことにより、問い合わせも例年より少なく、スムーズに広報活動を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会や小学生フェスティバルの申込みに関して、往復はがきを利用してはいるが、未返送の問い合わせが多かったので、Webによる申込み方法を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の案内は非常にわかりやすく評価できる。さらに新しい即興型英語イベント大会の開催予定を知らせるなどの工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会学校行事などの広報活動を効果的に実施できた。ホームページの適時更新が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを適時更新する。</li> </ul>
5	学校管理 学校運営	社会から信頼される学校づくりを推進し、事故、不祥事の防止を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故、不祥事防止について不断の意識徹底を図り、根絶に努めるとともに、保護者、県民への丁寧な対応に努める。</li> <li>・生徒の命にかかわる安全、安心に対する意識の向上を図り防災対策の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常業務で注意意識が薄れぬよう、定期的な事故不祥事防止会議を実施する。</li> <li>・緊急時における人員掌握体制及び保護者への連絡体制を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事防止会議を適正に実施し、不祥事を0件にすることができたか。</li> <li>・緊急時における人員掌握及び保護者への連絡体制を整えたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故、不祥事防止会議を年間11回、ゼロプログラムのテーマ毎に実施した。講義型のみならず、事例から事故防止案を教員一人ひとりが記載、職員室掲示も行った。</li> <li>・地震、津波対策訓練を実施し、帰宅班、緊急一斉メール、防災倉庫を整備した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者選抜における事故防止等、職員一人ひとりの当事者意識を高め、確実に業務を遂行する具体策が必要である。</li> <li>・緊急時における支援を必要とする生徒の安全対策、帰宅困難時の学校待機具体策を早急に整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における事故防止策は生徒のために絶対必要である。</li> <li>・定時制ではツイッターを導入した。新しいメディアを緊急時に活用できるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故、不祥事防止会議は具体的な指摘をもって粘り強く行う。</li> <li>・防災倉庫の整備が学年ごとにできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な日常業務で注意意識が薄れないように、時機を捉え、具体的な事故防止策を示し適切な注意喚起を行う。</li> <li>・緊急時における支援を必要とする生徒の安全対策及び帰宅困難生徒の学校待機具体策を早急に整備する。</li> </ul>